

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和37年度契約地											
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数104件 契約面積6,114ha（会津新潟地区1,591ha、会津新潟地区以外4,523ha） 植栽面積 スギ 1,437ha ヒノキ 577ha マツ 2,040ha カラマツ 1,056ha その他 4ha （うち会津・新潟地区 783ha 3ha 360ha 307ha 1ha）											
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林の造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数約1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>											
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		相模川水系相模ダム、阿賀野川水系大川ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち41%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち12%が存在している。											
事業の進捗状況（関東計）	森林調査済地（注1）	生育状況（面積比率：92%）（注3）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良						
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計				
			スギ	16.8m	24.3cm	330m ³	12%	2%	14%				
			ヒノキ	14.3m	21.3cm	237m ³	19%		19%				
			マツ	15.1m	20.7cm	221m ³	15%	4%	19%				
			カラマツ	17.9m	20.9cm	222m ³	6%	5%	11%				
	計				14%	3%	17%						
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。													
	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は17%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が28%と最も多い。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が48%と大半を占める。											
森林調査未済地（注2）	生育状況（面積比率：8%）	樹種	生育状況					計	（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分 （a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）				
			良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計						
			スギ		85%		15%					15%	100%
			ヒノキ	14%	77%	8%	1%					9%	100%
			マツ			74%	26%					100%	100%
			カラマツ		60%	40%						40%	100%
			その他		100%								100%
計	7%	53%	29%	11%	40%	100%							
樹種別に不良の割合をみると、スギで15%、ヒノキで9%、マツで100%、カラマツで40%、樹種計で40%である。													

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：98%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良						
			スギ	15.2m	23.4cm	290m ³	広葉樹化	生育遅れ(注4)	計				
			マツ	14.0m	20.2cm	201m ³	30%	8%	38%				
			カラマツ	18.1m	22.3cm	211m ³	5%	7%	12%				
			計				19%	6%	25%				
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。													
広葉樹林化した林分及び遅れている林分の原因			広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は25%である。広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。植栽木の生育が遅れている林分の原因：すべてが雪害となっている。										
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：2%)	樹種	生育状況					(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)				
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計		計			
			スギ		100%					100%			
			ヒノキ		100%					100%			
			マツ			100%		100%		100%			
			カラマツ										
			その他		100%					100%			
			計		49%	100%		100%		100%			
			樹種別に不良の割合をみると、マツで100%、樹種計で51%である。										
			事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：89%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径		平均1ha当材積	不良		
スギ	18.7m	25.3cm				377m ³	広葉樹化	生育遅れ(注4)	計				
ヒノキ	14.3m	21.3cm				237m ³	7%		7%				
マツ	15.3m	20.8cm				225m ³	19%	4%	17%				
カラマツ	17.8m	20.4cm				226m ³	13%	5%	13%				
計							11%	3%	14%				
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。													
広葉樹林化した林分及び遅れている林分の原因			広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は14%である。広葉樹林化した林分の原因：複合(凍害・干害)が59%と最も多い。植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が74%と最も多い。										
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：11%)	樹種	生育状況					(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)				
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計		計			
			スギ		79%		21%	21%		100%			
			ヒノキ	14%	77%	8%	1%	9%		100%			
			マツ			69%	31%	100%		100%			
			カラマツ		60%	40%		40%		100%			
			その他		100%					100%			
			計	8%	53%	27%	12%	39%		100%			
			樹種別に不良の割合をみると、スギで21%、ヒノキで9%、マツで100%、カラマツで40%、樹種計で39%である。										

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留 意 事 項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和42年度契約地									
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数61件 契約面積2,621ha（会津新潟地区882ha、会津新潟地区以外1,739ha） 植栽面積 スギ 863ha ヒノキ 318ha マツ 692ha カラマツ 324ha （うち会津・新潟地区 534ha - ha 167ha 29ha）									
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林の造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数約1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>									
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		天竜川水系秋葉ダム、利根川水系川治ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち32%が存在している。天簡水道等の百選の「桐生川源流林」に水源林造成地の一部が含まれている。									
事業の進捗状況（関東計）	森林調査済地（注1）	生育状況（面積比率：92%）（注3）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良				
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計		
			スギ	15.5m	21.4cm	293m ³	12%	1%	13%		
			ヒノキ	13.8m	20.8cm	245m ³	16%		16%		
			マツ	14.0m	20.6cm	196m ³	21%	7%	28%		
	カラマツ	18.9m	22.6cm	243m ³	2%	6%	8%				
	計				16%	4%	20%				
	平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
	広葉樹林化した林分及び生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は20%である。広葉樹林化した林分の原因：雪害が28%と最も多い。植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が48%と大半を占める。									
森林調査未済地（注2）	生育状況（面積比率：8%）	樹種	生育状況				計	（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分 （a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）			
			良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ					
			スギ	33%	52%	15%					15%
			ヒノキ	4%	82%	14%					14%
			マツ								
			カラマツ	22%	41%	37%					37%
			その他		100%						
計	28%	56%	16%	16%							
樹種別に不良の割合をみると、スギで15%、ヒノキで14%、カラマツで37%、樹種計で16%である。											

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：90%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計	
			スギ	14.2m	20.8cm	263m ³	4%	3%	7%	
			マツ	13.2m	19.0cm	203m ³	5%		5%	
			カラマツ	12.5m	17.8cm	173m ³		35%	35%	
			計				4%	3%	7%	
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
		広葉樹林化した林分及び遅れている原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は7%である。広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。植栽木の生育が遅れている林分の原因：すべてが雪害となっている。							
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：10%)	樹種	生育状況					計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計		
スギ	23%	50%		27%	27%	100%				
ヒノキ										
マツ										
カラマツ										
その他		100%				100%				
			計	23%	50%		27%	27%	100%	
樹種別に不良の割合をみると、スギで27%、樹種計で27%である。										
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：93%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計	
			スギ	16.8m	22.7cm	352m ³	31%		31%	
			ヒノキ	13.8m	20.8cm	245m ³	17%		17%	
			マツ	14.3m	21.2cm	194m ³	29%	9%	38%	
			カラマツ	19.6m	23.1cm	262m ³	4%	4%	8%	
			計				22%	5%	27%	
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
		広葉樹林化した林分及び遅れている原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は27%である。広葉樹林化した林分の原因：複合(凍害・干害)が59%と最も多い。植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が74%と最も多い。							
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：7%)	樹種	生育状況					計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
				良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ	小計		
スギ	45%	53%		2%	2%	100%				
ヒノキ	5%	82%		13%	13%	100%				
マツ										
カラマツ	22%	41%		37%	37%	100%				
その他										
			計	31%	61%		8%	8%	100%	
樹種別に不良の割合をみると、スギで2%、ヒノキで13%、カラマツで37%、樹種計で8%である。										

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留意事項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和47年度契約地										
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数78件 契約面積2,955ha（会津新潟地区853ha、会津新潟地区以外2,102ha） 植栽面積 スギ 637ha ヒノキ 474ha マツ 170ha カラマツ 490ha その他 22ha （うち会津・新潟地区 345ha 12ha 67ha 47ha - ha）										
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林の造成が必要である。関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。										
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		相模川水系相模ダム、利根川水系下久保ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち49%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち14%が存在している。										
事業の進捗状況（関東計）	森林調査済地（注1）	生育状況（面積比率：86%）（注3）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良					
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計			
			スギ	13.8m	19.4cm	259m ³	20%		20%			
			ヒノキ	13.6m	19.5cm	245m ³	18%		18%			
			マツ	13.4m	18.1cm	184m ³		7%	7%			
			カラマツ	17.0m	20.6cm	199m ³	3%	1%	4%			
	計				13%	1%	14%					
	平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。											
	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は14%である。広葉樹林化した林分の原因：雪害が28%と最も多い。植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が48%と大半を占める。										
森林調査未済地（注2）	生育状況（面積比率：14%）	樹種	生育状況				計	（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分 （a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）				
			良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ						
			スギ	5%	76%					19%	19%	100%
			ヒノキ		95%	2%				3%	5%	100%
			マツ									
			カラマツ		95%	3%				2%	5%	100%
			その他		100%							100%
計	1%	91%	2%	6%	8%	100%						
樹種別に不良の割合をみると、スギで19%、ヒノキで5%、カラマツで5%、樹種計で8%である。												

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：89%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計	
			スギ	13.8m	18.9cm	224m ³	10%		10%	
			マツ	13.6m	14.9cm	142m ³		7%	7%	
			カラマツ	13.4m	18.8cm	191m ³				
			計				7%	2%	9%	
平均樹高及び平均胸高直径の数值は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
		広葉樹林化した林分及び遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は9%である。広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。植栽木の生育が遅れている林分の原因：すべてが雪害となっている。							
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：11%)	樹種	生育状況					計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
				良	普通	不良				
			広葉樹化	生育遅れ	小計					
	スギ	8%	71%		21%	21%	100%			
	ヒノキ		100%				100%			
	マツ									
	カラマツ									
	その他									
			計	6%	78%		16%	16%	100%	
樹種別に不良の割合をみると、スギで21%、樹種計で16%である。										
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：85%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ(注4)	計	
			スギ	15.3m	20.1cm	303m ³	32%		32%	
			ヒノキ	13.6m	19.5cm	245m ³	18%		18%	
			マツ	14.6m	20.4cm	214m ³		7%	7%	
			カラマツ	17.2m	20.9cm	200m ³	4%	1%	5%	
			計				16%	1%	17%	
平均樹高及び平均胸高直径の数值は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
		広葉樹林化した林分及び遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分は17%である。広葉樹林化した林分の原因：複合(凍害・干害)が59%と最も多い。植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が74%と最も多い。							
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：15%)	樹種	生育状況					計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
				良	普通	不良				
			広葉樹化	生育遅れ	小計					
	スギ	86%		14%	14%	100%				
	ヒノキ	94%	2%	4%	6%	100%				
	マツ									
	カラマツ	95%	3%	2%	5%	100%				
	その他	100%				100%				
			計	94%	2%	4%	6%	100%		
樹種別に不良の割合をみると、スギで14%、ヒノキで6%、カラマツで5%、樹種計で6%である。										

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
 （注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。
 （注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）
 （注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。
 （注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留 意 事 項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては、植栽木が順調に生育していることから、密度管理のための間伐を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。 また、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更し、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、植栽木の成長を見守りつつ、当分の間必要最小限の保育等にとどめる。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和52年度契約地								
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数51件 契約面積818ha（会津新潟地区218ha、会津新潟地区以外600ha） 植栽面積 スギ 273ha ヒノキ 282ha マツ 13ha カラマツ 26ha その他 2ha （うち会津・新潟地区 131ha - ha - ha - ha -ha）								
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林の造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数約1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>								
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		多摩川水系小河内ダム、利根川水系下久保ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち28%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち7%が存在している。								
事業の進捗状況（関東計）	森林調査済地（注1）	生育状況 （面積比率：92%） （注3）	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良			
							広葉樹化	生育遅れ（注4）	計	
			スギ	13.9m	19.0cm	225m ³	5%		5%	
			ヒノキ	12.8m	18.1cm	228m ³	3%		3%	
			マツ	14.4m	19.5cm	209m ³				
			カラマツ	15.7m	18.6cm	186m ³				
	計				4%		4%			
平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。										
	広葉樹林化した林分及び植栽が遅れている林分の原因	広葉樹林化した林分は4%である。 広葉樹林化した林分の原因：雪害が28%と最も多い。 植栽木の生育が遅れている林分の原因：寒風害が48%と大半を占める。								
東計	森林調査未済地（注2）	生育状況 （面積比率：8%）	樹種	生育状況					計	（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：（a）～（c）は生育遅れ、（d）は広葉樹化に区分 （a）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（b）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。（c）植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。（d）広葉樹化した林分のもの。（広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分）
				良	普通	不良				
					広葉樹化	生育遅れ	小計			
			スギ	29%	59%	11%	1%	12%	100%	
			ヒノキ	21%	75%	4%		4%	100%	
			マツ			100%		100%	100%	
			カラマツ							
			その他		100%				100%	
	計	20%	70%	10%		10%	100%			
樹種別に不良の割合をみると、スギで12%、ヒノキで4%、マツで100%、樹種計で10%である。										

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：100%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良				
			スギ	10.4m	16.7cm	154m ³	広葉樹化	生育遅れ(注4)	計		
			計				8%		8%		
平均樹高及び平均胸高直径の数值は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。											
		広葉樹林化した林分の原因	広葉樹林化した林分は8%である。 広葉樹林化した林分の原因：すべてが雪害となっている。								
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：10%)	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)		
			スギ	良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ				
			ヒノキ								
			マツ								
			カラマツ								
			その他								
			計								
該当なし。											
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査済地 (注1)	生育状況 (面積比率：90%) (注3)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha当材積	不良				
			スギ	17.1m	21.0cm	290m ³	広葉樹化	生育遅れ(注4)	計		
			ヒノキ	12.8m	18.1cm	228m ³	3%		3%		
			マツ	14.4m	19.5cm	209m ³	3%		3%		
			カラマツ	15.7m	18.6cm	186m ³					
			計				3%		3%		
平均樹高及び平均胸高直径の数值は、サンプル調査した結果に基づく主林木のみの推計値である。											
		広葉樹林化した林分の原因	広葉樹林化した林分は3%である。 広葉樹林化した林分の原因：複合(凍害・干害)が59%と最も多い。								
事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率：10%)	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林国営保険における年齢別限界生立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)		
			スギ	良	普通	広葉樹化	不良生育遅れ				
			ヒノキ	29%	59%	11%	1%	12%	100%		
			マツ	21%	75%	4%		4%	100%		
			カラマツ			100%		100%	100%		
			その他		100%				100%		
			計	20%	70%	10%		10%	100%		
樹種別に不良の割合をみると、スギで12%、ヒノキで4%、マツで100%、樹種計で10%である。											

事業コスト縮減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで選木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に適用した強度な間伐等）することによりコスト縮減を図る。
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向（注5）	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。

（注1）森林調査済地は、概ねIV齢級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

（注2）森林調査未済地は、改植等による若齢林である等の理由から、詳細な森林調査が実施されてない森林であって、表中の（注）の基準により生育状況を把握したもの。

（注3）森林調査済地の生育状況は、林齢別の生育状況を林齢別面積で加重平均したものである。（広葉樹林化した林分を除く。）

（注4）植栽木の生育が遅れている林分とは、樹高・1ha当たり材積とも収穫予測表の5等地の数値を1割以上下回る林分を示す。

（注5）関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

留 意 事 項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育している林分がほとんどであり、密度管理のための間伐等を行うなど適正な保育管理を行い、間伐収入の確保に努めながら主伐期の林分に誘導していく。なお、雪害・寒害等によって広葉樹林化した一部の林分については、侵入広葉樹の育成に重点を置いた施業へ変更する。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和57年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数16件 契約面積252ha（会津新潟地区8ha、会津新潟地区以外244ha） 植栽面積 スギ 43ha ヒノキ 126ha カラマツ 26ha （うち会津・新潟地区 6ha - ha - ha）							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		利根川水系草木ダム・川治ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち45%が存在している。							
事業（関の進東挾状計況）	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	16%	82%	1%	1%	2%		100%
		ヒノキ	14%	84%		2%	2%		100%
		マツ							
		カラマツ		100%					100%
		その他							
		計	13%	86%		1%	1%		100%
樹種別に不良の割合をみると、スギで2%、ヒノキで2%、樹種計で1%である。									

事業 (会津 の進・ 捗状況 地区)	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	96%		4%	4%	100%		
		ヒノキ							
		マツ							
		カラマツ							
		その他							
計	96%		4%	4%	100%				
樹種別に不良の割合をみると、スギで4%である。									
事業 (会津 の進・ 捗状況 地区 以外)	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	3%	96%		1%	1%		100%
		ヒノキ	14%	84%		2%	2%		100%
		マツ							
		カラマツ		100%					100%
		その他							
計	10%	88%		2%	2%	100%			
樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで2%、樹種計で2%である。									
事業コスト削減の可能性	<p>今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。</p> <p>また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。</p>								
景観への配慮	<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>								
関係者の意見・意向 (注)	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。</p>								

(注)関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

	留 意 事 項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

3 - 1

期中評価実施地区名		関東整備局 昭和62年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数31件 契約面積1,111ha（会津新潟地区335ha、会津新潟地区以外777ha） 植栽面積 スギ 302ha ヒノキ 268ha カラマツ 106ha その他 32ha （うち会津・新潟地区 169ha - ha - ha -ha）							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		利根川水系川治ダム、天竜川水系秋葉ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち68%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち2%が存在している。							
事業（関係の進捗状況）	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	
			良	普通	不良				
		広葉樹化			生育遅れ	小計			
		スギ	3%	94%	1%	2%	3%		100%
		ヒノキ		95%	5%		5%		100%
		マツ							
		カラマツ		88%		12%	12%		100%
		その他		100%					100%
		計	2%	93%	2%	3%	5%		100%
樹種別に不良の割合をみると、スギで3%、ヒノキ5%、カラマツ12%、樹種計で5%である。									

事業 (会津 の進・ 捗状況 地区)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	6%	90%		4%	4%		100%
		ヒノキ							
		マツ							
		カラマツ							
		その他							
計	6%	90%		4%	4%	100%			
樹種別に不良の割合をみると、スギで4%である。									
事業 (会津 の進・ 捗状況 地区 以外)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ		99%		1%	1%		100%
		ヒノキ		95%	5%		5%		100%
		マツ							
		カラマツ		88%		12%	12%		100%
		その他		100%					100%
計		95%	3%	2%	5%	100%			
樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで5%、カラマツで12%、樹種計で5%ある。									
事業コスト削減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。								
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。								
関係者の意見・意向 (注)	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。								

(注)関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

	留 意 事 項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

3 - 1

期中評価実施地区名		関東整備局 平成4年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数30件 契約面積407ha（会津新潟地区178ha、会津新潟地区以外229ha） 植栽面積 スギ 86ha ヒノキ 87ha マツ 7ha カラマツ 9ha その他 11ha （うち会津・新潟地区 68ha - ha 7ha - ha 3ha）							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		天竜川水系秋葉ダム、利根川水系川治ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち25%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち14%が存在している。							
事業（関係の進捗状況）	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで3%、ヒノキで12%、カラマツで11%、樹種計で7%である。</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	8%	89%	1%	2%	3%		100%
		ヒノキ	4%	84%	10%	2%	12%		100%
		マツ		100%					100%
		カラマツ		89%	11%		11%		100%
		その他	5%	95%					100%
		計	6%	87%	5%	2%	7%		100%

事業 (会津 の進・ 捗状況 地区)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
			良	普通	不良				
					広葉樹化	生育遅れ			
		スギ	11%	85%	1%	3%	4%	100%	
		ヒノキ							
		マツ		100%				100%	
		カラマツ							
		その他	20%	80%				100%	
		計	10%	87%	1%	2%	3%	100%	
		樹種別に不良の割合をみると、スギで4%、樹種計で3%である。							
事業 (会津 の進・ 捗状況 地区 以外)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)	
			良	普通	不良				
					広葉樹化	生育遅れ			
		スギ		99%	1%		1%	100%	
		ヒノキ	4%	84%	10%	2%	12%	100%	
		マツ							
		カラマツ		89%	11%		11%	100%	
		その他		100%				100%	
		計	3%	87%	8%	2%	10%	100%	
		樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで12%、カラマツで11%、樹種計で10%である。							
事業コスト削減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。								
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。								
関係者の意見・意向 (注)	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。								

(注)関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

	留 意 事 項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

3 - 1

期中評価実施地区名		関東整備局 平成9年度契約地							
契約件数・面積及び植栽面積		契約件数62件 契約面積500ha（会津新潟地区63ha、会津新潟地区以外437ha） 植栽面積 スギ 74ha ヒノキ 199ha カラマツ 7ha その他 22ha （うち会津・新潟地区 22ha - ha - ha 11ha）							
森林・林業情勢、農山漁村の状況、その他の社会情勢の変化		<p>関東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は、近年ほぼ横ばい状態にあり、現在なお14万4千ha程度（うち水源かん養保安林面積（推計）2万7千ha、保安林以外の面積（推計）10万2千ha）存在し、引き続き森林造成が必要である。</p> <p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約22%をしめており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。</p> <p>林家数の1ha～10ha未満の保有林家戸数の占める割合が大きく、また、私有林面積の約半数は、1ha未満を管理している林家であることから、不在村所有森林の多くが小規模保有層で占められているものと考えられる。</p> <p>関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、緑資源機構等の公的主体による人工造林面積の占める割合は増加しており、その役割は引き続き大きい。</p>							
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連公共施設の整備状況		利根川水系五十里ダム・下久保ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち22%が存在している。簡易水道等の水道施設に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち13%が存在している。							
事業（関の進東抄状況）	生育状況	樹種	生育状況				計	<p>(注)生育状況の基準</p> <p>良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。</p> <p>普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。</p> <p>不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分</p> <p>(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>	
			良	普通	不良				
				広葉樹化	生育遅れ	小計			
		スギ	12%	87%	1%		1%		100%
		ヒノキ	7%	86%	2%	5%	7%		100%
		マツ							100%
		カラマツ		100%					100%
		その他	63%	37%					100%
		計	12%	84%	1%	3%	4%		100%
樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで7%、樹種計で4%である。									

事業 (会津 の進・ 捗状況 地区)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
			良	普通	不良			
				広葉樹化	生育遅れ	小計		
		スギ	8%	92%			100%	
		ヒノキ						
		マツ						
		カラマツ						
		その他	100%				100%	
計	39%	61%			100%			
事業 (会津 の進・ 捗状況 地区 以外)	生育状況	樹種	生育状況				計	(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林国営保険における齢級別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した林分のもの。(広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)
			良	普通	不良			
				広葉樹化	生育遅れ	小計		
		スギ	14%	85%	1%	1%	100%	
		ヒノキ	7%	86%	2%	5%	100%	
		マツ						
		カラマツ		100%			100%	
		その他		100%			100%	
計	8%	87%	1%	4%	5%	100%		
樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで7%、樹種計で5%である。								
事業コスト削減の可能性	今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、枝打に当たっては、生育及び搬出条件の良好な箇所を厳選し、主伐を想定して選木することによりコスト削減を図る。							
景観への配慮	適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。							
関係者の意見・意向 (注)	周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き適期作業の計画的な実施を要望している。							

(注)関係者の意見・意向については、平成14年度アンケート調査によるものである。

	留 意 事 項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が順調に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。 なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況の良い区域へ重点化する等によりコスト縮減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にして、適切な保育管理に努める。